

一西だより

豊川市立一宮西部小学校通信

令和6年4月5日 第2号

発行；校長 村上謙一

令和6年度の「担任制」について

これまでの「当たり前」を問い直す

これまでの担任制は、一人の担任が1年間、受け持った学級に責任をもって担当し、ほとんどの教科の授業を行っていました。小学校が当たり前に取り入れていたこの制度は、これまでの社会情勢の中では有効に機能していました。

しかし、現在は社会がスピード感をもって激しく変化しており、10年後20年後の未来の予測が困難になっています。デジタルDXによる社会構造の根本的な変化に加え、経済的な格差の広がり、子どもの貧困、家庭環境の多様化、失業など経済的な問題、地域社会のつながりの希薄化、不登校や暴力行為など生徒指導上の課題、特別な支援を必要とする児童や日本語を母国語としない家庭で育つ児童への十分な支援の必要性、これらが複雑に絡み合い、一つの家庭・一人の子どもにのしかかります。

問題が複雑であればあるほど、それに一人の学級担任が一人の個性でかかわるだけでは十分な対応ができなくなってきていると本校では考えています。これまでの「学校の当たり前」を問い直して新しい時代に即した体制を整える必要があります。



そこで、本校では令和5年度に高学年及び中学年において「教科担任制」を一部導入しました。お子様を複数の先生が複数の個性で多面的に見取れる体制を整えることで、一人ひとりにあった支援をしていくことを一番に考えた取組です。2学期からは2年生においても一部で導入しました。

令和6年度はこの取り組みを、学習面だけでなく生活面にも広げます。これまで通りの「担任制」をとりますが、高・中学年では1週間の中で1日だけ、担任が交代します。子どもの視点からは「担任以外にもかかわってくれる先生がたくさんいます」というイメージになります。具体的には右のとおりです。

高学年

- ・これまで通り担任がいます。
- ・学級が安定する6月より、毎週水曜日を「チーム担任の日」と定め、学年の3人の担任がローテーションで担任業務を行います。
- ・昨年度に引き続き、教科担任制も実施します。

中学年

- ・これまで通り担任がいます。
- ・毎週水曜日を「チーム担任の日」と定め、学年の3人の担任がローテーションで担任業務を行います。時期については、学級集団の人間関係や授業の取り組み方の安定を待って開始します。
- ・昨年度に引き続き、教科担任制も実施します。教科担任制を行う教科は高学年より少なくします。

低学年と5・6・7・8・9組

- ・これまで通り担任がいます。
- ・集団の凝集性（まとまり）を高めて子どもが安心して生活できる環境づくりを重視します。授業の大半を担当が行います。教科担任制は部分的に導入します。
- ・高学年・中学年でやるチーム担任は原則として行いません。

※給食指導は食物アレルギー対応に万全を期すため、全学年で担任を固定します。

教科担任制の充実とチーム担任のメリット

- ・子どもを多角的、多面的に見ることができる
- ・多様な教育ニーズに応えられる
- ・全ての先生が主体的に子どもと関わることができる（隣のクラスの子という意識がなくなる）
- ・先生同士のコミュニケーションを密にとれる
- ・子どもの長所や能力をさらに伸ばすことができる
- ・子どもが先生を選んで相談できる
- ・教員同士の学び合いになる
- ・教員の働き方改革につながる

教科担任制の充実とチーム担任のデメリット

- ・先生同士のコミュニケーションの時間が必要
- ・先生同士の情報共有の手間がかかる
- ・「〇〇先生の方が好き」というような人気の偏りが生じ、一人の先生に負担がかかる可能性がある

これらのメリットとデメリットを客観的にとらえ、子どもの声を拾って、子どもたちにとって最適な形の「担任制」を模索していきます。